

# 南房総・安房で平和学習



## 学習のねらい

戦場にはならなかったが、首都東京を守る東京湾要塞が置かれた館山市には、奇跡的に破壊を免れた保存状態のよい戦争遺跡が集積している。歴史の証人である身近な戦跡を学習の素材に、平和について学習することができる。



これができる!

1. 街角の戦跡で平和学習
2. 平和の文化を学習



## プログラム概要

### ■街角の戦跡で平和学習

首都東京防衛のため、東京湾要塞地帯の拠点となる海軍航空基地、海軍砲術学校などさまざまな軍事施設が館山に置かれた。戦後、施設は破壊され、その遺跡は地域開発のため崩壊が進んだが、約50ヶ所(内、A級遺跡18ヶ所)の保存の良い戦争遺跡が残った。長野県松代の大本營跡の地下壕に匹敵する全長1.6キロの赤山地下壕、零戦を隠した掩体壕(えんたいごう)、砲台や弾薬庫跡、本土決戦に備えた陣地跡など、我が国有数の近代遺跡群と言われる。民家の裏、畑の一角、海水浴場の隣など街角に残された戦跡である。

コース：赤山地下壕—(徒歩)—掩体壕—アメリカ占領米軍上陸地  
(所要時間：約3時間)



### 南房総の主な戦争遺跡



### ■平和の文化を学習

「南房総の歴史・文化財・戦争遺跡」(P17)に、考え方が示されている。「『平和の文化』をめぐる南房総・安房での痕跡」(P52)の事例と併せて、ご参照ください。

コース：城山公園—安房博物館—大厳院—赤山地下壕—掩体壕  
(所要時間：1日 人数：要相談)



## 戦争遺跡を教材にした平和学習を

1880（明治13）年、東京湾に侵入する敵艦船の航行を阻止するために、当時最高の建設・軍事技術によって要塞建設が開始され、1932（昭和7）年東京湾要塞が完成している。南房総・安房は、アジア太平洋戦争の軍事戦略拠点として、館山海軍航空隊や洲ノ崎海軍航空隊、館山海軍砲術学校など、15年にわたった戦争を物語っている戦争遺跡が数多く残っている。「本土決戦」ではアメリカ軍上陸が想定され、「一億総玉碎」のかけ声のなかで終戦を迎えた。

1945年9月2日の戦艦ミズーリでの降伏宣言調印式の翌日、館山上に上陸したアメリカ占領軍は、4日間「直接軍政」を敷いた。戦後日本のスタートになった地として、地域から「平和の文化」を考える素材が多い。

## 南房総の戦争遺跡群

南房総・安房はアジア太平洋戦争15年間の動きをたどることができる、全国でも極めて貴重な戦争遺跡（以下、戦跡とする）が集中している地域である。1930年に開隊した館山海軍航空隊は、関東大震災後に浅瀬となった館山湾の一角に、3年がかりで埋め立てて建設された海上航空基地であり、当時「陸の空母」と呼ばれていた。ここでは実戦部隊でも艦上攻撃機のパイロット養成訓練や、航空機の開発を担っていたといわれ、なかでも館山とサイパン間の約2,220kmを無着陸で飛行した九六式中型陸上攻撃機（「中攻」）の開発に成功し、その実戦部隊は後に中国の無差別攻撃「渡洋爆撃」への出撃する部隊の先駆けとなった。また空母を中心とする機動部隊構想のなかで、ハワイ真珠湾攻撃を想定した猛訓練がおこなわれたといわれる。

さまざまに残る戦跡のなかでも、航空戦略に関わる極秘の地下壕として建設されたと思われる「赤山地下壕」（館山市指定文化財）では、戦争を推進させていった痕跡を見ることができる。いまも航空隊司令室の奉安殿や自力発電所・通信室・医療施設などが壕内に残っている。

また、1941年の対米英戦直前にアメリカ海兵隊を模し陸上戦闘の専門家養成学校として開校したのが、館山海軍砲術学校であった。厳しい訓練で「鬼の館砲」と呼んだ将兵たちは、海軍初の落下傘部隊をはじめ、太平洋の島々の激戦場に送り込まれていったが、さまざまな戦跡を通じて、戦争によって地域がどのように変わっていくかを知ることができる。

日清・日露戦争以降、軍事戦略拠点には要塞が置かれ、なかでも

帝都や要地横須賀を防衛するため、半世紀をかけて建設されたのが東京湾要塞である。南房総では、洲崎第一砲台や第二砲台と弾薬支庫、大房岬砲台などの戦跡があり、東京湾要塞地帯に住む人びとは、さまざまな規制のもとに置かれた。戦争末期には「本土決戦」のかけ声のもと、沖縄戦の次は南房総での戦いを「第2の沖縄戦」と想定し、ロケット特攻機「桜花」や水上特攻艇「震洋」・特攻潜「海龍」「蛟龍」など、さまざまな特攻兵器の部隊

が配置された。住民たちには「花作り禁止令」のなかで食糧増産を強要し、火薬になる海草の採取をはじめ、子どもたちの「ウミホタル」採集など、本土決戦の陣地建設や国民義勇兵として、「一億総玉碎」のスローガンを強いていく体制がつくられていった。いまも残っている地域の素材から戦争の傷跡を知ることができる。

## 4日間の「直接軍政」～戦後の原点

1945年9月3日 AM9:20

### 米占領軍館山に上陸

終戦を迎え、東京湾上の戦艦ミズーリ号で降伏文書が調印された翌日、アメリカ陸軍第8軍3,500名が館山海軍航空基地に上陸し、館山市は「4日間」本土で唯一「直接軍政」が敷かれ、戦後日本のスタート地点となった。



## ◆受入団体－南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

地域で見過ごされてきた戦争遺跡や里見氏の文化財などに光をあて、地域教材を活用した授業実践を契機に市民による保存運動が生まれ、そ

の後、文化団体や公民館と協働して学習会やフィールドワークを積み重ねて、平成16年、「平和・交流・共生」を理念に、平和研修や総合学習を支援するガイド事業などを行うNPOが設立された。

### 1泊2日のモデル日程（平和学習コース）

#### ■平和学習コース

- 1日目 午前：座学・事前学習「どんな地域か」（1時間）  
午後：館山の戦争遺跡めぐり（3時間）

- 2日目 午前：無人島の自然体験（2～3時間）

#### ■平和の文化学習コース

- 1日目 午前：座学・事前学習「どんな地域か」・安房博物館（館山市立博物館）・城山公園（昼食）  
午後：アジア太平洋戦争と赤山地下壕・「本土決戦」と戦闘機用掩体壕・アメリカ占領軍上陸地と戦後日本まとめ学習

- 2日目 午前：無人島の自然体験

### 私たちがご案内します



愛沢 伸雄さん

（南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム理事）

#### ■コメント

いまある文化財を活用して地域から「平和・交流・共生」の理念を学んでいただけることを願っています。



池田 恵美子さん

（南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム事務局）

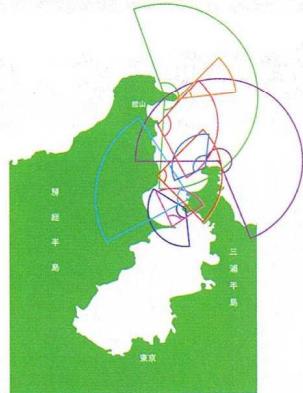
#### ■コメント

逆さ地図の視点で館山から日本を再発見。平和文化を学ぶことはワクワクします。一緒に学びましょう。

■お問い合わせ先 館山市観光協会 TEL.0470-22-2530 館山市北条1879-2（体験交流センター内）

NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム館山市八幡822 TEL.0470-22-8271 <http://www.internet-ex.com/npo/index.html>

東京湾要塞砲台の編成と射界



# 「平和の文化」をめぐる 南房総・安房での痕跡

南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム 愛沢 伸雄

逆さ地図でみると房総半島は太平洋に突き出ている。その先端である南房総・安房の地は、古代より海路の拠点であり、海洋民らかに交流・共生し、異なる文化や価値観を互いに認め合い、「平和の文化」を生み出してきた地域であった。

そのような事例のひとつとして、館山市大網の浄土宗大巌院には、インドの梵字、中国の篆字、和風漢字、朝鮮（韓国）のハングルの4つの国の言葉で「南無阿弥陀仏」と刻まれた江戸時代の石塔がある。「平和の文化」を象徴のような石塔が、なぜ館山に存在するのかを考えてみたい。

ところで太平洋からのプレートで押し上げられる房総半島は、いまも地震多発地帯であり、この地の人びとは大きな災害に苦しんできた。元禄大地震や関東大震災の痕跡を通じて、どのように困難な状況を乗り越えてきたかを知ることができる。

古代から近現代まで、様々な支配権力の戦略拠点であり、なかでも近現代では日清・日露戦争からアジア太平洋戦争にかけて、軍事戦略上最も重要な役割を担っていた地域である。数多く残っている戦争遺跡を通じて「平和の文化」の姿がどのように変わっていったかを学ぶことができる。

先人たちは地域コミュニティの力を大切にしながら知恵を絞って、

災害や戦乱を乗り越え「平和の文化」が生きる地域をつくってきた。南房総・安房の地にある「平和・交流・共生」の姿を平和学習の教材にしたい。



逆さ地図  
この地図は富山県が作成した地図(一部)を転載したものである。(平6総使観76号)

## 事例1 大巖院の「四面石塔」と平和の願い

館山市大網の大巣院には、1624（元和10）年建立の平和を願う石塔がある。秀吉が朝鮮半島で引き起こした壬辰倭乱（文禄の役）に関わる供養塔と思われる。建立当時、家康は秀吉によって混乱した東アジア世界との外交を回復させるために、拉致してきた朝鮮人の返還事業や朝鮮国との外交団（通信使）を通じて修復を図っていた。

その時期に大きな役割を果たしたのが、石塔に刻まれている雄譽靈巖上人（のち京都知恩院中興の祖）であった。戦国期の戦乱や秀吉の朝鮮侵略に苦しんでいた民衆、とくに海に働く人びとや拉致されてきた朝鮮人たちへの布教活動を通じて、世界平和の認識をもったと推測される雄譽は、寄進者山村茂兵夫妻らの平和の思いや願いをハングル刻字にされている。



## 事例2 太平洋を渡ったアワビ漁師（器械潜水夫）たちと戦争

南房総・安房では、古代からアワビを朝廷に献上していたという記録が残っており、アワビ漁は重要な産業で、この地において脈々と継承され、「あま（海女・海士）」と呼ばれる人びとが今日まで活躍してきた。

